



# オリンピックに出て、 金メダル獲って、 小柳ハンパねえと 言わせたい。



「レスリングを始めたきっかけは：気づいたらやっていたよ（笑）。自分が小

強豪校へ進学。いずれの時代も輝かしい成績とともに歩みを進めてきた。しかし、大学では思うような成績が残せなかったという。

さい頃、兄と姉がレスリングをしていたけど、自分はやらないつもりでいました。しかし、いつの間にかやっていた感じ。」と取材に対し、レスリングを始めたきっかけにあつさりとは答える小柳選手の姿があつた。淡々と質問に答える様子は、22歳の若さで日本の頂点に立ったアスリートとして貫禄を感じさせる。

「どうしても準決勝で負けてしまう。」苦い記憶を呼び起こすように言い、準決勝の壁を乗り越えられないでいた。今まで負けたことのない相手でも準決勝で対戦すれば負けてしまう。このことが原因でレスリングをやめようかなと考えた。

小柳選手は、昨年の12月に開催された全日本選手権フリースタイル61kg級で優勝し、今年の6月には全日本選抜選手権でも同階級で優勝を果たし、世界選手権への切符を勝ち取った。

しかし、今の所属チーム（自衛隊）のコーチにオフアームをもらった。本当にうれしく、レスリングを続けるきっかけとなり、今回の成績にもつながっていると語る。

世界選手権での目標は、「もちろん金メダルを獲ること」。自信に満ち溢れた言葉とその表情には揺るぎない信念が感じられる。そんな小柳選手も挫折を経験したことがある。

これまでレスリングを続けてきた背景に、親への感謝も忘れない。「高校や大学など費用面では迷惑をかけている。親の支えはこれまでのレスリング人生に欠かせない。」

小さい頃は、小諸キッズレスリングクラブでレスリングを学び、中学は芦原中学校へ。高校は、山梨県のレスリング

世界選手権出場壮行会では、小柳選手に関わりがある大勢の皆さんが集まり、エールを送った。小柳選手は声援に「世界選手権でメダルを獲り、オリンピックに出て金メダルを獲って、相手選手に小柳ハンパねえと言わせたい。」と力強く応えた。

【写真】

壮行会で小柳選手にエールを送る。

